

ピアノと日本画の印象派

# ドビュッシーと



## 猪原大華

～音と絵を楽しむコンサート～



演奏曲 ドビュッシー：「映像」、「前奏曲集」、「版画」より

出品予定作品 猪原大華 <sup>ひよどり</sup>「鶇」「庭椿」「紫陽花」「河骨」「野苺」

2022年9月18日(日) 16:00開演(15:30開場)

会場 Kayacc Klavier 1F ホール

阪急京都線西山天王山駅下車徒歩5分

入場料 3,000円(全席自由)

音の響きを追求し、これまでにない音世界を開拓したフランスの作曲家・ドビュッシーと、京都画壇に新しい風をもたらした日本画家・猪原大華。2人の魅力にせまる、音と絵の鑑賞会です。



ピアノ 河合珠江

チケット予約 | 090-3721-9878 / bohemiamusicsociety@gmail.com

(オフィスBMS)

お名前とご希望の枚数をお知らせください。

コロナ感染対策のため、検温、マスク着用、手指の消毒、咳エチケットなどのご協力をお願いいたします。  
また、予約の際にご連絡先を控えさせていただきます。

主催 | ボヘミア・ミュージック・ソサエティ

いのほらたいか

猪原大華(1897-1980)は、広島県福山市で生まれました。京都市立絵画専門学校(現・京都市立芸術大学)で学び、西欧から帰国したばかりの土田麦僊に師事します。画風を模索する中で、モネなどの作風から影響を受けました。花鳥画を得意とし、色使いやタッチには独特の味わいがあります。

一方、クロード・ドビュッシー(1862-1918)の作品には、文学や絵画、自然などが音を通して描かれ、彼は音楽における「印象主義」の旗手と言われています。1889年、ドビュッシーはパリ万博で東洋の文化に出会います。それ以来、東洋風の和声や響きが作品に頻繁に現れるようになりました。

両者とも、分野は違いますが、単なる描写にとどまらず、対象を静かに深く見つめ、心象を抽出するという共通点があります。西洋と東洋の香り、色、響き、<sup>パッション</sup>滲み出る情熱…。それぞれの魅力をご紹介します。

## 演奏者プロフィール

### 河合珠江(ピアノ) KAWAI TAMAE/piano

京都市立芸術大学音楽学部卒業。同大学院修士課程を最優秀で修了し、大学院賞受賞。同博士課程においてチェコの作曲家ドゥシークについて研究博士号を取得した。これまでに、ソロアルバム2枚を含む8枚のCDをリリース。近年は「音と沈黙のはざまで—サティがきこえる風景」(静岡)や「松平頼則・ドビュッシー練習曲全曲演奏会シリーズ」(大阪、京都)、「大澤寿人×パリ」(芦屋)、「音の万華鏡」「幻想の瞬間」(京都)等の近現代のピアノ曲を扱った演奏会が好評をえた。ソロのほか伴奏や室内楽、新曲初演にも積極的に取り組むほか、神戸新聞エッセイ「随想」や音楽雑誌「ムジカノーヴァ」への執筆など幅広く活動している。また、中国各地におけるマスタークラスの講師や京都市立芸術大学非常勤講師を務めるなど、後進の指導にも力を注いでいる。

YouTube 配信チャンネル「Czech Piano Music Channel」



## Kayacc Klavier/カヤッククラヴィア

【西山天王山駅からの道順】ホームから1階に下りて東改札口をご利用ください。駅を背に左斜め前方に“調子八角”の交差点があります。そちらを左折(上り坂方面・府道67号線)し3分ほど直進、道沿い左側にございます。  
(お車でのご来場はご遠慮ください。)